

動的オブジェクト

1. 概要	2
2. 出力パターン	3
2-1. 動的オブジェクトの出力位置	3
2-2. 動的オブジェクトの出力条件	4
3. 定義方法	5
3-1. 動的オブジェクトの作成	5
3-1-1. オブジェクトの動的化	6
3-1-2. 動的オブジェクトの確認	8
3-2. 動的オブジェクトの出力	9
3-2-1. データ指定出力	9
3-2-2. 自動出力	13
4. XML データによる動的オブジェクトの出力	17
4-1. 動的オブジェクト名の指定方法	17
5. 動的オブジェクト設定について	18
5-1. Form エディタ	18
5-1-1. リンク先テキスト変数に対する位置設定	18
5-1-2. 各オブジェクトに対する重ね合わせ設定	19
5-2. Datamap エディタ	20
6. 注意事項	22

1. 概要

動的オブジェクトは、データ項目の切り替わりや最終行を自動的に判断したり、データファイル中で任意に指定した出力位置を判断し、出力帳票内へ動的に出力されるオブジェクトです。動的オブジェクトを使用することで、可変長の帳票を動的に作成することができます。また、文字の打ち消し線や背景色としても利用することができます。

動的オブジェクトとして使用できるオブジェクトは以下の通りです。

- 直線オブジェクト
- 四角形オブジェクト
- 楕円オブジェクト
- 罫線オブジェクト
- 固定テキスト

また、これらのオブジェクトを組み合わせ、一つの動的オブジェクトとして作成することもできます。

<< 注意 >>

動的オブジェクトが使用できる入力データタイプは、CSV データ、XML データ、DB データです。
※ DB データにおける動的オブジェクトはマネージャのメニュー [ヘルプ] - [オンラインマニュアル] から「3. 機能リファレンス」-「3.2 エディタの操作」-「DB 形式の Datamap エディタ」をご覧ください。

2. 出力パターン

2-1. 動的オブジェクトの出力位置

動的オブジェクトの出力位置は以下のように決定されます。

■ X 座標（横方向）

Form エディタ上での動的オブジェクト作成位置がそのまま反映されます。

■ Y 座標（縦方向）

動的オブジェクトは、リンク指定を行ったテキスト変数を基準にして、以下の二つの方法によって出力位置を決定することができます。

※テキスト変数とのリンク指定に関しては「3-2. CSV データによる動的オブジェクトの出力」をご覧ください。

1. データ指定出力

データファイル中で出力位置を指定します。

出力位置の指定は、CSV データの 1 列目に動的にオブジェクト名を指定する方法や、XML データの要素の属性に動的オブジェクト名を指定する方法があります。

実際に動的オブジェクトが出力される位置は、ここで指定したデータの出力行とリンク先テキスト変数の行間隔から算出されます。

2. 自動出力

リンク先テキスト変数にマッピングされたデータ項目の切り替わりや、最終行が検出されたタイミングで、動的オブジェクトを自動的に出力します。

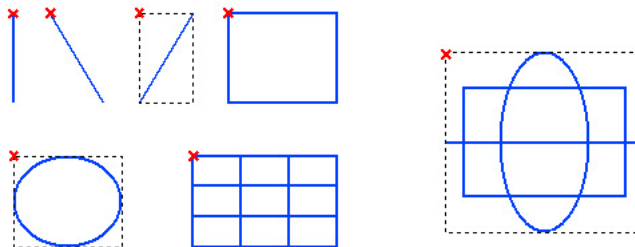
さらに、データ項目中の全行に対して自動的に出力することもできます。

■ オブジェクトの基準座標

上記 Y 座標で指定された出力位置に対し、実際に動的オブジェクトが描画される基準点が存在します。

その基準点は、基本的には動的オブジェクトの左上の点となります。

図：基準点



個別の動的オブジェクト

複合動的オブジェクト

※ × 印は基準点を表しています。

2-2. 動的オブジェクトの出力条件

動的オブジェクトの出力条件として設定できる項目は以下の通りです。

※設定方法については「3-2. 動的オブジェクトの出力」をご覧ください。

■出力位置指定

入力データファイル中で動的オブジェクトの出力位置を指定します。

■データ切替

リンク先テキスト変数によって出力されるデータの切替（キーブレイク）で動的オブジェクトを出力します。

■全行（パターン A）

リンク先テキスト変数によって出力されるデータの全行に動的オブジェクトを出力します。

■全行（パターン B）

リンク先テキスト変数によって出力されるデータの全行に動的オブジェクトを出力します。
ただし、最終ページの最終行に動的オブジェクトは出力されません。

■全行（パターン C）

リンク先テキスト変数によって出力されるデータの全行に動的オブジェクトを出力します。
ただし、各ページの最終行に動的オブジェクトは出力されません。

■最終行（パターン A）

リンク先テキスト変数によって出力されるデータの最終ページの最終行に動的オブジェクトを出力します。

■最終行（パターン B）

リンク先テキスト変数によって出力されるデータの各ページの最終行に動的オブジェクトを出力します。

3. 定義方法

ここでは、途中まで作成された帳票資源ファイルを使用して、動的オブジェクトの定義方法を説明します。

説明で使用する作業ディレクトリは、“帳票資源フォルダ¥tut¥dynamic”です。

帳票資源フォルダはマネージャの [ヘルプ] - [バージョン情報] - [バージョン情報詳細] で確認できます。

最終的に出力されるサンプル帳票“交通費請求明細書”は以下の通りです。

図：サンプル帳票

[illegible][illegible]

このサンプル帳票では、交通費のリスト形式の出力枠や線等をすべて動的オブジェクトを使用して出力しています。一つのフォームで、異なった形の枠を持つ帳票を作成することができます。

また、動的オブジェクトの出力パターンとして「データ指定出力」と「自動出力」を使用した場合のデータマップ設定について説明します。

3-1. 動的オブジェクトの作成

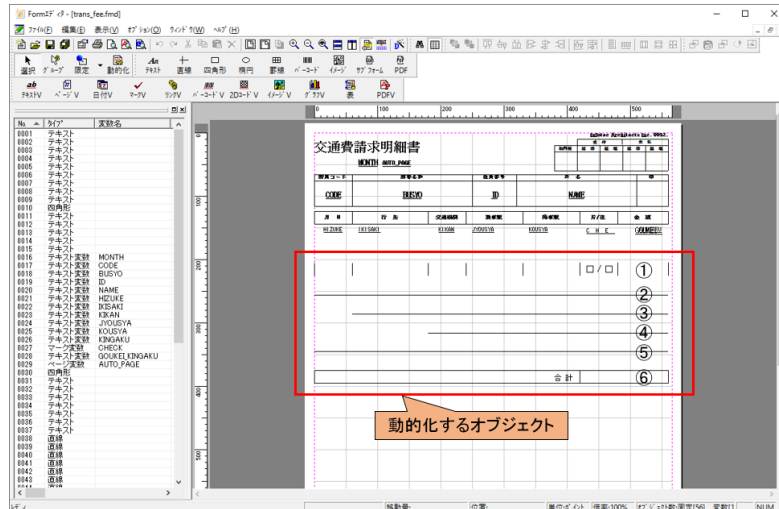
Form エディタから動的オブジェクトを作成します。

◆◆ 操作 ◆◆

マネージャを起動し、ディレクトリツリーより“帳票資源フォルダ ¥tut¥dynamic”をクリックします。

プレビューエリアより、“trans_fee_set.sty”を選択し、マネージャのツールボタン [フォーム編集] をクリックします。(プレビューをダブルクリックしても同様です。)

図 : trans_fee.fmd



図中の赤枠で囲まれた部分①～⑥のオブジェクトを動的オブジェクトとして定義します。
各オブジェクトは、このサンプル帳票で次の役割を持っています。

- ①：各行の列区切り線と片 / 往チェック出力四角形
- ②：日付の区切り線
- ③：行先の区切り線
- ④：交通機関の区切り線
- ⑤：ページ切り替え時の日付の区切り線
- ⑥：合計出力枠

動的オブジェクトとして定義した①～⑥の組み合わせで、サンプル帳票を構成します。

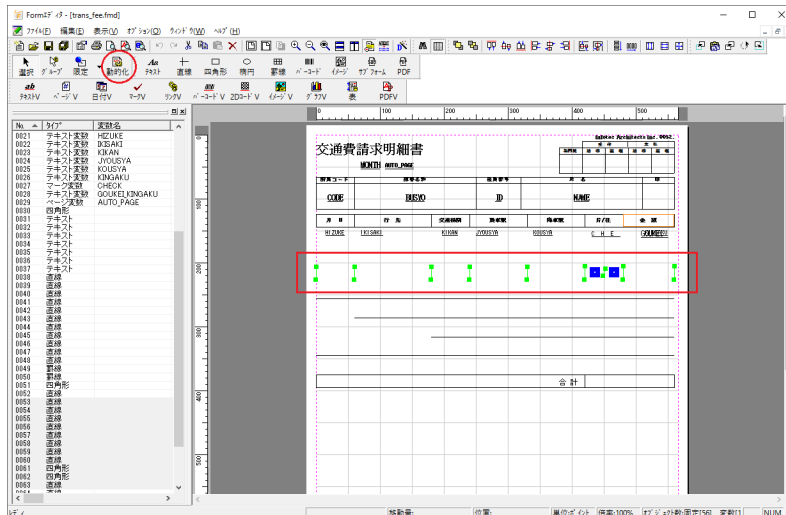
3-1-1. オブジェクトの動的化

①のオブジェクトを動的化オブジェクトとして設定します。

◆◆ 操作 ◆◆

①のオブジェクトすべてを選択状態にし、ツールボタンの「動的化」ボタンをクリックします。

図 : trans_fee.fmd



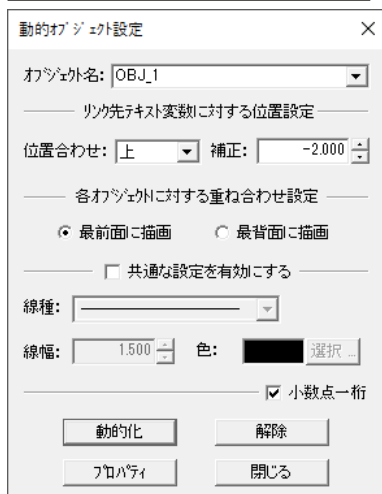
動的オブジェクト設定ダイアログが表示されます。
通常の変数と同様に、オブジェクト名を設定します。

◆◆ 操作 ◆◆

[オブジェクト名]に“OBJ_1”、[リンク先テキスト変数に対する位置指定]の[位置合わせ]を“上”、[補正]を“-2.000”と設定します。[動的化]ボタンをクリックし、[閉じる]ボタンをクリックします。

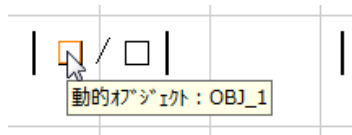
※動的オブジェクトの設定項目については「5. 動的オブジェクト設定について」をご覧ください。

図 : 動的オブジェクト設定ダイアログ



以上の設定で、①のオブジェクトが動的オブジェクトとして定義されました。
動的化されたオブジェクトは、カーソルをそのオブジェクトに重ねるとツールチップが表示されます。

図：ツールチップ



同様に②～⑥のオブジェクトについても動的化を行います。
手順は①と同様です。

◆◆ 操作 ◆◆

各動的オブジェクトの設定値を入力し、動的化を行います。

	オブジェクト名	位置合わせ	補正
②:	OBJ_2	上	-2.000
③:	OBJ_3	上	-2.000
④:	OBJ_4	上	-2.000
⑤:	OBJ_5	下	-2.000
⑥:	OBJ_6	上	-2.000

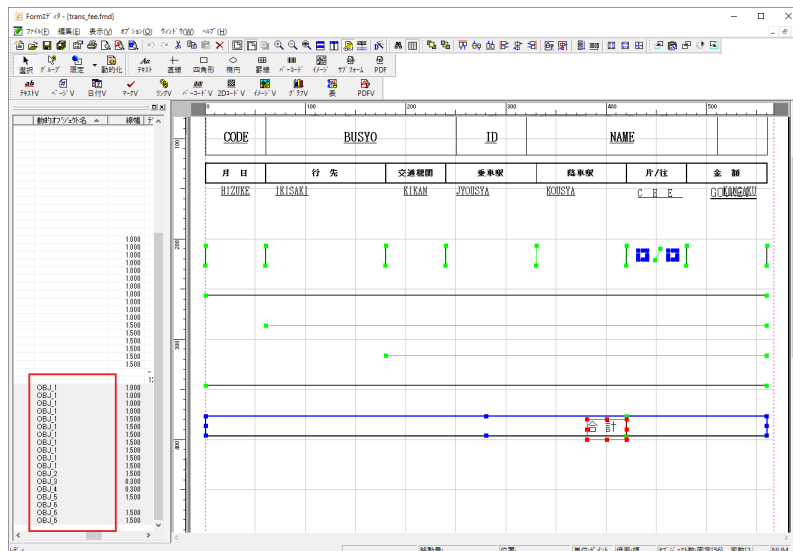
①～⑥のオブジェクトの動的化が終了しました。

3-1-2. 動的オブジェクトの確認

Form エディタのオブジェクトリストから動的オブジェクト名の確認を行います。

※オブジェクトリストが表示されていない場合は、ツールメニュー [表示]-[オブジェクトリスト] を選択してください。

図：オブジェクトリスト



動的オブジェクト名が正しく設定されているのを確認し、Form ファイルを保存します。

◆◆ 操作 ◆◆

Form エディタのツールメニュー [ファイル]-[上書き保存] をクリックし、[Form エディタの終了] をクリックします。

3-2. 動的オブジェクトの出力

3-2-1. データ指定出力

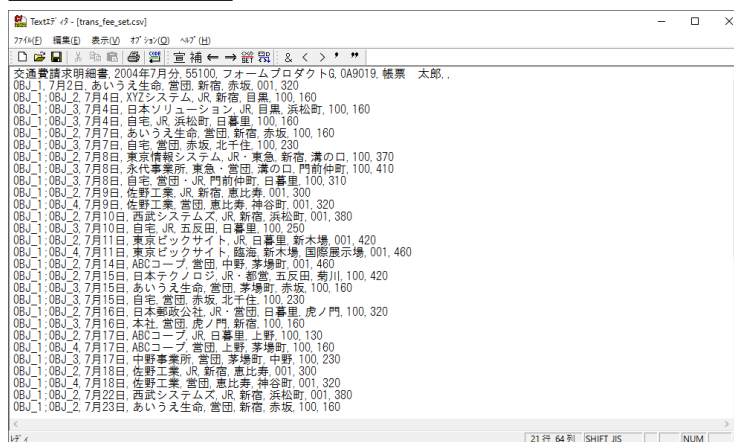
CSV ファイル中で動的オブジェクトの出力位置を指定する「データ指定出力」を説明します。

まずは、すでに用意されているデータ指定出力によって動的オブジェクトを出力する CSV ファイルを確認します。

◆◆ 操作 ◆◆

データファイルリストの “trans_fee_set.csv” をダブルクリックします。

図 : trans_fee_set.csv



CSV データファイルの 1 列目に動的オブジェクト名が指定されています。(1 行目のヘッダマッピング用データは除きます)

ここでは各行で出力する動的オブジェクトが指定されています。1 行に複数の動的オブジェクトを指定する場合は、動的オブジェクト名の間を “;”(セミicolon) で区切って指定します。

CSV データファイルの内容を確認したら、Text エディタを終了します。

◆◆ 操作 ◆◆

ツールメニュー [ファイル]-[Text エディタの終了] を選択し、Text エディタを終了します。

引き続き Datamap エディタから動的オブジェクトの設定を行います。

Datamap エディタから動的オブジェクトとテキスト変数のリンク設定を行います。

◆◆ 操作 ◆◆

プレビューエリアより “trans_fee_set.sty” をクリックし、マネージャのツールボタン [データマップ編集] をクリックします。

図 : trans_fee_set.dmp

マッピングされたテキスト変数を基準に、動的オブジェクトをリンクします。
 ここで選択したテキスト変数のマッピング領域および行間隔を基準として、動的オブジェクトを出力します。

ここでは、データ指定出力によって動的オブジェクトを出力するための設定を行います。

◆◆ 操作 ◆◆

ツールボタン [動的オブジェクト] ボタンをクリックし、動的オブジェクト設定ダイアログを表示します。

図 : ツールボタン - [動的オブジェクト]

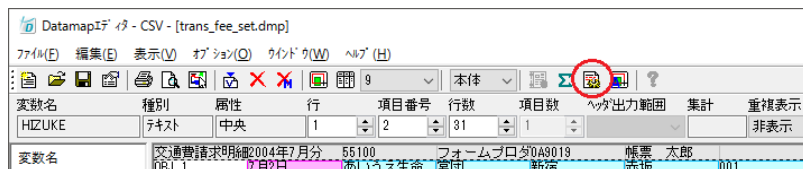


図 : 動的オブジェクト設定ダイアログ

リストの「オブジェクト名」に Form エディタで作成した動的オブジェクト名が表示されます。ここではまず、テキスト変数「HIZUKE」に対して動的オブジェクト「OBJ_1」～「OBJ_5」をリンクします。

また、出力条件として「出力位置指定」を設定します。

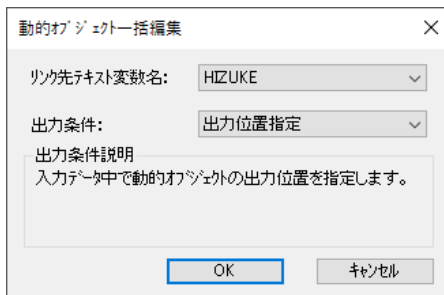
※出力条件に関しては前述の「2-2. 動的オブジェクトの出力条件」をご覧ください。

◆◆ 操作 ◆◆

動的オブジェクト「OBJ_1」～「OBJ_5」のチェックボックスを「ON」にし、「一括編集」ボタンをクリックして動的オブジェクト一括編集ダイアログを表示します。

リンク先テキスト変数名に「HIZUKE」を選択し、出力条件として「出力位置指定」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。

図：動的オブジェクト一括編集ダイアログ



次に、テキスト変数「GOUKEI_KINGAKU」に対して動的オブジェクト「OBJ_6」をリンクします。

◆◆ 操作 ◆◆

「チェック解除」ボタンをクリックして動的オブジェクト「OBJ_1」～「OBJ_5」のチェックボックスを「OFF」にします。

「OBJ_6」のリンク先テキスト変数名と出力条件のそれぞれに「GOUKEI_KINGAKU」と「出力位置指定」を設定します。[OK] ボタンをクリックします。

<< 注意 >>

リンク先テキスト変数を複数行に対してマッピングしたとき、動的オブジェクトはリンク先テキスト変数に設定した「行間隔」の単位で出力されます。「リスト形式データの出力」機能と合せて使用する場合、「リンク先テキスト変数を定義した高さ（Y方向のサイズ）」と「行間隔」の値を同一にしてください。

<< Tips >>

この帳票サンプルでは、テキスト変数「HIZUKE」とテキスト変数「GOUKEI_KINGAKU」の行間隔、マッピング開始行、マッピング行数がすべて等しいため、どちらのテキスト変数にリンクしても出力結果は変わりません。

動的オブジェクトとテキスト変数のリンク設定が終了しましたので、Datamap ファイルを保存します。

◆◆ 操作 ◆◆

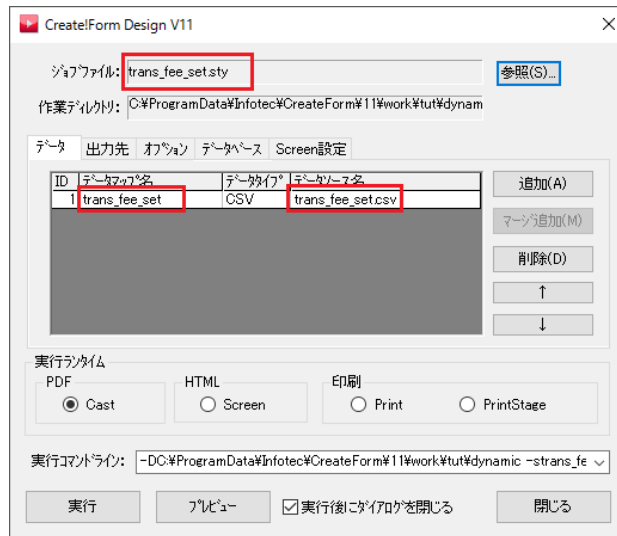
Datamap エディタのツールメニュー「ファイル」-「上書き保存」をクリックし、「Datamap エディタの終了」をクリックします。

最後に動的オブジェクトの出力結果を PDF プレビューで確認します。

◆◆ 操作 ◆◆

マネージャのプレビューエリアより、“trans_fee_set.sty” をクリックして選択状態にします。データファイルリストより “trans_fee_set.csv” をクリックして選択状態にし、マネージャのツールボタン [実行] をクリックします。

図：実行ダイアログ



それぞれの設定項目が正しいことを確認し、テスト実行を行います。

◆◆ 操作 ◆◆

[実行ランタイム]-[PDF]-[Cast] ラジオボタンが選択されていることを確認して、[プレビュー] ボタンをクリックします。

図：プレビュー画面

trans_fee_set.pdf - Adobe Acrobat Reader DC

ファイル 編集 表示 ウインドウ ヘルプ

ホーム ツール trans_fee_set.pdf

1 / 2

46.3%

サインイン

交通費請求明細書

2004年7月分 - 1 -

http://cchugyo.co.jp/

項目		7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	合計
51100	フォームプロダクト	060019	郵便 太郎					
5	主							
7	支							
7.10	あいり生活	郵便	郵便					520
7.140	日本アップリンク	送	郵便	郵便	☒	☒	☒	1400
	日本アップリンク	送	郵便	郵便	☒	☒	☒	1400
	吉野	送	郵便	郵便	☒	☒	☒	1400
7.170	あいり生活	郵便	郵便					700
7.180	あいり生活	郵便	郵便					250
7.1810	あいり生活	送	郵便	郵便	☒	☒	☒	370
	吉野事務所	郵便	郵便	郵便	☒	☒	☒	410
7.190	吉野	郵便	送	郵便	☒	☒	☒	530
	日本工務	送	郵便	郵便	☒	☒	☒	530
7.1910	吉野事務所	郵便	郵便	郵便	☒	☒	☒	530
7.19110	吉野事務所	郵便	郵便	郵便	☒	☒	☒	530
7.191110	東京近江ナカヤ	送	郵便	郵便	☒	☒	☒	250
	東京近江ナカヤ	送	郵便	郵便	☒	☒	☒	420
	郵便	郵便	郵便	郵便	☒	☒	☒	420
7.19140	はなへん	郵便	郵便	郵便	☒	☒	☒	400
7.19150	日本アップリンク	送	郵便	郵便	☒	☒	☒	420
	日本アップリンク	送	郵便	郵便	☒	☒	☒	420
	吉野	郵便	郵便	郵便	☒	☒	☒	250
7.19160	日本郵便公社	送	郵便	郵便	☒	☒	☒	520
	米田	郵便	送	郵便	☒	☒	☒	1400
7.19170	はなへん	送	郵便	郵便	☒	☒	☒	120
	上野	郵便	郵便	郵便	☒	☒	☒	100
	吉野事務所	郵便	郵便	郵便	☒	☒	☒	250
	日本工務	送	郵便	郵便	☒	☒	☒	250
7.19210	あいり生活	郵便	郵便	郵便	☒	☒	☒	500
7.19220	あいり生活	郵便	郵便	郵便	☒	☒	☒	700
	Greenland	送	郵便	郵便	☒	☒	☒	450
	吉野事務所	郵便	郵便	郵便	☒	☒	☒	400
	米田	郵便	郵便	郵便	☒	☒	☒	150

交通費請求明細書

2004年7月分 - 2 -

http://cchugyo.co.jp/

項目		7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	合計
51100	フォームプロダクト	060019	郵便 太郎					
5	主							
7	支							
7.10	あいり生活	郵便	郵便	郵便	☒	☒	☒	120
	吉野	郵便	郵便	郵便	☒	☒	☒	250
	郵便	郵便	郵便	郵便	☒	☒	☒	250
	郵便	郵便	郵便	郵便	☒	☒	☒	250
7.1910	あいり生活	郵便	郵便	郵便	☒	☒	☒	250
	日本アップリンク	送	郵便	郵便	☒	☒	☒	420
	吉野	郵便	送	郵便	☒	☒	☒	120
	日本工務							

フォームで作成した動的オブジェクトが CSV データファイルおよび Datamap エディタで指定した位置に出力されることが確認できます。

以上で、動的オブジェクトを使用した“交通費請求明細書”の帳票が完成しました。

3-2-2. 自動出力

リンク先テキスト変数にマッピングされたデータ項目の切り替わりによって動的オブジェクトが出力される「自動出力」を説明します。

Datamap エディタから動的オブジェクトとテキスト変数のリンク設定を行います。

◆◆ 操作 ◆◆

マネージャのプレビューエリアより、Job ファイル “trans_fee_auto. sty” を選択し、マネージャのツールボタン [データマップ編集] をクリックします。

図 : trans_fee_auto.dmp

変数名	種別	属性	行	項目番号	項目数	項目出力範囲	集計	重複表示
MONTH	右		1	2	1	1	表示	
CODE	右		1	2	1	1	表示	
BUSYO	右		1	2	1	1	表示	
NAME	右		1	2	1	1	表示	
AUTO_PAGE	右		1	2	1	1	表示	
HIZUKE	右		1	2	1	1	表示	
KISAKI	右		1	2	1	1	表示	
KIKAN	右		1	2	1	1	表示	
YOUSYA	右		1	2	1	1	表示	
KOUSYA	右		1	2	1	1	表示	
CHECK	右		1	2	1	1	表示	
KINGAKU	右		1	2	1	1	表示	
GOUKEI_KINGAKU	右		1	2	1	1	表示	

マッピングされたテキスト変数を基準に、動的オブジェクトをリンクします。
 ここで選択したテキスト変数のマッピング領域および行間隔を基準として、動的オブジェクトを出力します。
 ここでは、自動出力によって動的オブジェクトを出力するための設定を行います。

◆◆ 操作 ◆◆

ツールボタン [動的オブジェクト] ボタンをクリックし、動的オブジェクト設定ダイアログを表示します。

図 : 動的オブジェクト設定ダイアログ

一括	オブジェクト名	リンク先テキスト変数名	出力条件
☐	OBJ_1	HIZUKE	最終行(バースンB)
☐	OBJ_2	HIZUKE	全行(バースンA)
☐	OBJ_3	HIZUKE	データ切替
☐	OBJ_4	KISAKI	データ切替
☐	OBJ_5	KISAKI	全行(バースンA)
☐	OBJ_6	GOUKEI_KINGAKU	最終行(バースンA)

出力条件説明

リスト上にFormエディタで作成した動的オブジェクト名が表示されます。
 各動的オブジェクトが以下の内容で設定されていることを確認します。
 ※出力条件に関しては前述の「2-2. 動的オブジェクトの出力条件」をご覧ください。

オブジェクト名	リンク先テキスト変数名	出力条件
OBJ_1	HIZUKE	全行 (パターン A)
OBJ_2	HIZUKE	データ切替
OBJ_3	IKISAKI	データ切替
OBJ_4	IKISAKI	全行 (パターン A)
OBJ_5	HIZUKE	最終行 (パターン B)
OBJ_6	GOUKEI_KINGAKU	最終行 (パターン A)

<< Tips >>

このサンプル帳票では、テキスト変数“GOUKEI_KINGAKU”に“集計”が設定されています。
集計によって出力されるデータ行に対しても動的オブジェクトが出力されることを、合わせて確認してください。
集計については、マネージャのメニュー [ヘルプ] - [オンラインマニュアル] から「3. 機能リファレンス」-「3.4 集計値の表示とデータ編集」-「集計値の表示」をご覧ください。

動的オブジェクトとテキスト変数のリンク設定が終了しましたので、Datamap エディタを終了します。

◆◆ 操作 ◆◆

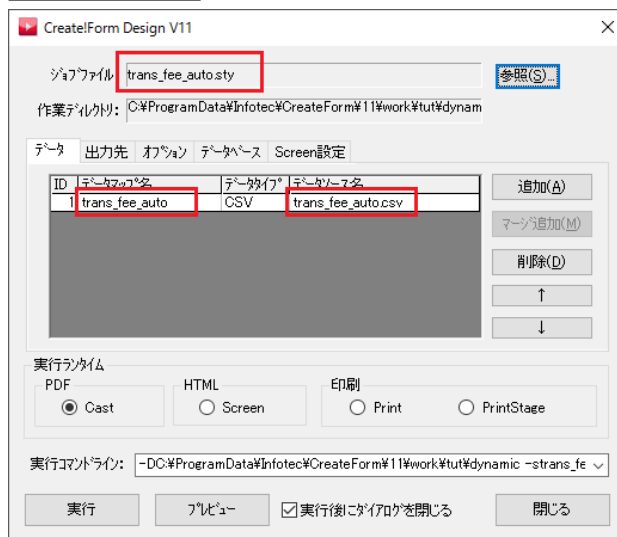
Datamap エディタを終了します。

最後に動的オブジェクトの出力結果を確認します。

◆◆ 操作 ◆◆

マネージャのプレビューエリアより、“trans_fee_auto.sty”をクリックして選択し、マネージャのツールボタン [実行] をクリックします。

図：実行ダイアログ



それぞれの設定項目が正しいことを確認し、テスト実行を行います。

◆◆ 操作 ◆◆

〔実行ランタイム〕-〔PDF〕-〔Cast〕ラジオボタンが選択されていることを確認して、〔プレビュー〕ボタンをクリックします。

図：プレビュー画面

[illegible]

フォームで作成した動的オブジェクトが CSV データファイルおよび Datamap エディタで指定した位置に出力されることが確認できます。

以上で、動的オブジェクトを使用した“交通費請求明細書”の帳票が完成しました。

4. XML データによる動的オブジェクトの出力

XML データファイルを使用した動的オブジェクトの出力は、基本的に CSV データファイルと同様の手順で行います。

ただし、出力条件で “出力位置指定” を設定した場合は、入力データファイル中での動的オブジェクト名の指定方法が異なるため注意が必要です。

4-1. 動的オブジェクト名の指定方法

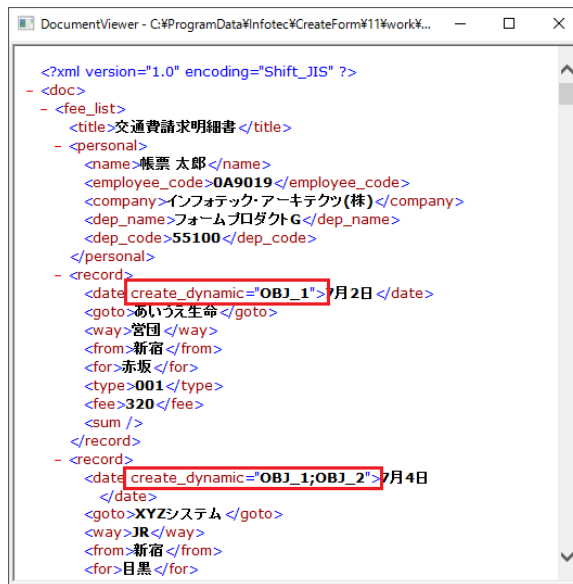
XML データファイルによる動的オブジェクト名の指定は、要素の属性値に動的オブジェクト名を記述します。

この動的オブジェクト名を記述する要素は、動的オブジェクトをリンクしたテキスト変数によってマッピングされている要素となります。

また、この時指定する属性名は “create_dynamic” とします。

1 行に複数の動的オブジェクト名を指定する場合は、動的オブジェクト名の間を “;” (セミicolon) で区切って指定します。

図：動的オブジェクト名を指定した XML データ



なお、XML データファイルによる動的オブジェクトの出力は、“帳票資源フォルダ¥tut¥dynamic”にあるサンプル帳票で確認できます。

プレビューエリアから、ジョブファイル “trans_fee_setx.sty” または “trans_fee_autox.sty” を選択して実行結果の確認を行ってください。

5. 動的オブジェクト設定について

5-1. Form エディタ

Form エディタで動的オブジェクトの設定を行う「動的オブジェクト設定ダイアログ」について説明します。

図：動的オブジェクト設定ダイアログ

【オブジェクト名】

動的オブジェクトを識別する名前を指定します。

<< 注意 >>

動的オブジェクト名は以下の条件を満たしている必要があります。

- ・最初の文字は英数字
- ・続く文字は英数字または記号 [_]、[-]、[#] のいずれか
- ・最大長 31 バイト

なお、既に定義されたオブジェクト名をコンボボックスから選択することも可能です。

また、オブジェクト名を選択したり、同じオブジェクト名を入力して動的化した場合は、既存の動的オブジェクトのグループに、このオブジェクトが追加されます。

5-1-1. リンク先テキスト変数に対する位置設定

データマップで設定したリンク先のテキスト変数に対して、オブジェクトをどのように出力するかを設定します。

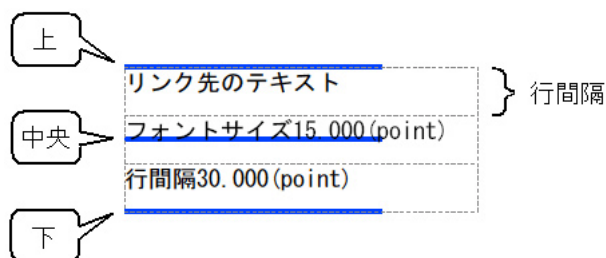
【位置合わせ】

動的オブジェクトを出力する縦位置（上、真中、下）を設定します。

なお、リンクしたテキスト変数の行間隔に対して有効になります。

※同名の動的オブジェクトすべてに対して設定されます。

図：位置合わせ例



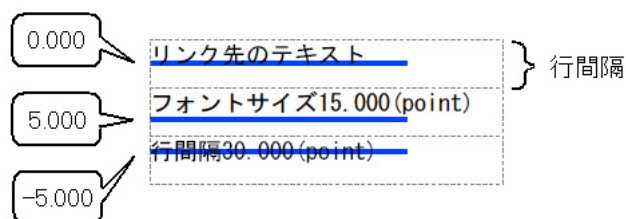
【補正】

「位置合わせ」で設定した出力位置からのY座標の補正値を入力します。0.000が初期値となります。

動的オブジェクトは、プラス値ならば下に、マイナス値ならば上にずれて描画されます。

※同名の動的オブジェクトすべてに対して設定されます。

図：補正値例



(位置合わせ：真中)

5-1-2. 各オブジェクトに対する重ね合わせ設定

動的オブジェクトを出力する際の描画順番を設定します。

「最前面に描画」を設定すると、他の全てのオブジェクトより前面に描画されます。打ち消し線等の用途に使用できます。

「最背面に描画」を設定すると、他の全てのオブジェクトより背面に描画されます。背面の色づけなどの用途に使用できます。

初期設定は、「最前面に描画」です。

※同名の動的オブジェクトすべてに対して設定されます。

図：重ね合わせ例

最前面に描画：



最背面に描画：

最背面に描画

【共通な設定を有効にする】

設定したオブジェクト名と同じオブジェクト名をもつ動的オブジェクト全てに、[線種]、[線幅]、[色]の設定を反映させる場合に、チェックボックスをチェック状態にします。

チェックした状態のまま動的化を行なうと、それぞれの設定が、同じ名前の動的オブジェクトすべてに反映されます。

【動的化】

上記の動的オブジェクト設定を使用してオブジェクトを動的化します。

動的オブジェクト設定は、Formエディタ上で選択されている全てのオブジェクトおよび同名の動的オブジェクトすべてに反映されます。

【解除】

Formエディタ上で選択されている動的オブジェクトの設定を解除します。

その名前の動的オブジェクトが全て解除されると、オブジェクト名のリストからその情報も自動的に削除されます。

【プロパティ】

Formエディタ上で選択されているオブジェクトのプロパティダイアログを表示します。

動的オブジェクト設定ダイアログで設定できない各オブジェクト固有のプロパティを設定する場合に使用します。

【閉じる】

動的オブジェクト設定ダイアログを終了します。

[動的化] ボタンをクリックする前にダイアログを閉じると、動的オブジェクト設定が反映されないためご注意ください。

5-2. Datamap エディタ

Datamap エディタでテキスト変数と動的オブジェクトのリンク設定を行う「動的オブジェクト設定ダイアログ」について説明します。

図：動的オブジェクト設定ダイアログ



一括	オブジェクト名	リンク先テキスト変数名	出力条件
☐	OBJ_5	HIZUKE	最終行(ハッシュB)
☐	OBJ_1	HIZUKE	全行(ハッシュA)
☐	OBJ_2	HIZUKE	データ切替
☐	OBJ_3	IKISAKI	データ切替
☐	OBJ_4	IKISAKI	全行(ハッシュA)
☒	OBJ_6	GOUKEI KINGAKU	最終行(ハッシュA)

出力条件説明

[一括編集]

動的オブジェクト一括編集ダイアログを起動します。

[すべて選択]

リストに表示されている全ての動的オブジェクトのチェックボックスを“ON”にします。

[チェック解除]

リストに表示されている全ての動的オブジェクトのチェックボックスを“OFF”にします。

[出力条件説明]

選択された出力条件の詳細説明が表示されます。

[OK]

動的オブジェクト設定ダイアログでの設定を反映して、ダイアログを終了します。

[キャンセル]

動的オブジェクト設定ダイアログでの設定を反映せずに、ダイアログを終了します。

<< 注意 >>

Datamap エディタで設定したテキスト変数と動的オブジェクトのリンク設定は、Form ファイルを修正（対象の動的オブジェクトの削除など）しても反映されません。

テキスト変数と動的オブジェクトのリンク設定を解除したい場合は、[リンク先テキスト変数名]として空欄を選択してください。

6. 注意事項

テキスト変数のプロパティで以下の設定を行っている場合、リンク先テキスト変数として指定することができません。

- ・ [配置] タブ - [自動改行] が設定されている
- ・ [配置] タブ - [流し込み] が設定されている
- ・ マッピングがされていない

「自動改行」もしくは「流し込み」を設定している場合、設定を解除して変数をインポートする必要があります。変数のインポートには下記手順で行います。

- 1: Datamap エディタにて、リンク先とするテキスト変数を削除します。
- 2: Form エディタにて、リンク先テキスト変数とする変数のプロパティから「流し込み」 / 「自動改行」設定を解除し、Form ファイルを保存します。
- 3: Datamap ファイルを開き、メニューバー「編集」から「変数のインポート」を選択します。
- 4: 該当する Form ファイルを選択して「OK」ボタンを押します。
- 5: 削除した変数が表示されるので、チェックが入っていることを確認して「OK」ボタンを押します。
- 6: 変数名リストにインポートした変数名が表示されるので、該当するエリアをマッピングします。